

(様式)

令和4年3月7日

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立狭山台小学校
校長 中島 敏也

令和3年度 狭山市立狭山台小学校 学校関係者評価表

※学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※【評価の目安】

- A : よくできている (90%以上)
- B : 概ねできている (75%以上)
- C : あまりできていない (60%以上)
- D : できていない (60%未満)

目標領域	番号	評価項目	評価	自己評価説明	学校関係者評価委員から評価(文章表記)
かしこい子	1	児童は、相手に届く声で話したり音読したりしている。	B	・丁寧な文字・下書き・消しゴムの有用性など具体的な指導をし、できたときには認めていくことを繰り返して、意識を高めていく。	3 自主学习ノートにコメントを入れていくのは大変な作業だが、子供たちの意欲向上につながると思う。
	2	児童は、文字を丁寧に書いている。(下書き・消しゴムを上手に使う)	C	・自主学习ノートにコメントを入れ、自主学习コーナーを設置することで、家庭学習の習慣化と共に、自主学习の質を高めている。家庭学習の取り組み方にはまだ差があるので、引き続き意欲・質の向上を図っていく。	3 家庭学習の取り組み方の差の解消は難しい課題であると思うが、自主学习ノートへのコメントやコーナー設置といった工夫で児童の意欲を高め、自主学习への意識づけに大変良い取り組みだと思う。できるだけ一人ひとりの取り組みに丁寧に対応していただくことで、児童の意欲向上につながると思う。
	3	児童は、進んで家庭での学習に取り組んでいる。(塾等での学習を含めて〔10×学年〕分)	B	・授業では、毎時間めあてを提示している。一方、授業のまとめ・ふり返りについてはまだ不十分である。今後も授業力向上に努め、確実に学力の定着に向けた取組を展開していく。	4 授業での毎時間のめあて提示は大変良いと思う。
	4	学校(教員)は、わかりやすい授業に努めている。(めあての明示、児童が自分の言葉でまとめる授業の展開)	B	・児童と接触のないSUP「ステップアッププログラム」を4・5・6年生に導入した。	3・5長期の感染対策で集合形式の学習機会が減り、自習習慣のある児童とそうでない児童の学力差が大きくなるように、学校・保護者・児童の連携が必要かと思う。三者面談を増やしたり、学習に関する日頃からの情報共有の強化も取り入れてはいかかが。
	5	学校は、学習内容が子供に身に付くように努めている。	A		
やさしい子	6	児童は、自分から目を見て挨拶している。	C		6 狭山台地区が、子供の声絶えないまちであり続けてほしいので、今後も挨拶の指導を続けていきたいと思います。
	7	児童は、相手を思いやるやさしい言葉づかいをしている。	B	・挨拶が課題である。年間を通じて計画的に指導してきた(全学級が取り組む挨拶運動、児童会の挨拶運動等)が、個人差が大きい。目を見て進んで挨拶ができるよう全職員で指導を継続する。	6 挨拶はなぜ必要なのかということを取り返し伝え、児童が挨拶の必要性に自ら気づき、自発的にできるようになることが大切かと思う。コロナ禍でマスクの着用が必須の生活の中で、お互いの表情がわかりづらいため、なお、目を合わせてのコミュニケーションが大切になるのではと思う。
	8	児童は、集団のために活動している。(係活動、当番活動、清掃など)	B	・言葉づかいの指導と合わせて人権教育を進めた。いじめ等の防止のために日頃から児童の様子に注意を払うとともに、年3回のアンケート調査を実施した。	6 2006年狭山市に転入してきた際、子供から挨拶をしてくれたことに驚きと感動を覚えたのを思い出す。何時の頃からか、その習慣がなくなってしまったように思う。見知らぬ人との会話を避けるという見方もわかるが、今一度見直していただきたく思う。
	9	児童が学校は楽しいと思えている。	A	・いじめ防止・児童の安全確保について、高い意識で取り組んでいる。	
	10	児童にいじめを許さない心を育てるとともにいじめの早期発見・早期対応に努める。	A	・言語環境を整え、内面を高めていく道徳授業の展開と道徳実践力の向上を目指し、自分も相手も大切に、互いに認め合い、みんなが安心して過ごせる学級にしていく。	7・10先生方の言葉づかいの丁寧な指導やいじめ防止、人権教育への高い意識をもった取り組みが着実に教育効果に表れ、良い評価につながっていると思う。
	11	内面を高めていく道徳授業の展開。道徳実践力を高める指導。	B		
	12	学校は、児童が安心して過ごせる環境を作っている。	B		10いじめ問題は恥ずかしながら大人社会にも現存しており、子供たちはそのあたりをしっかりと見ている。我々も日々の言動や表現など、注意していきたいものである。

たくましい子	13	児童は、何事にもあきらめずに最後まで取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の日常化、運動に親しむ環境づくりが課題である。学校生活の中で、体育を充実させ、休み時間にも体を動かすことができるようにしていく。家庭の中でもできる運動等について情報提供を行っていく。 ・交通安全教室を年2回（1年生は3回）実施した。交通安全に関して、意識が高まってきているので、引き続き繰り返し指導していく。 ・毎月安全点検を行いその都度対処している。引き続き施設管理、安全指導に努め、校内の学習環境を整えていく。 	<p>15・16家庭での教育力の差を感じるが、児童が規則正しい生活を送ること、交通ルールを守ることなどの必要性を折に触れ保護者に再認識をしてもらう必要があると感じる。</p> <p>16下校後の自転車の乗り方で、ヘルメットをかぶり信号を守っている子もいれば、スマホ・ゲームを見ながら自転車に乗っている子も見かけるので、交通安全の指導はくり返し指導していただきたいと思う。</p>
	14	児童は、進んで運動に取り組んでいる。	B		
	15	児童は、早寝・早起きをし朝ごはんを食べて登校している。	B		
	16	児童は、交通ルールを守り、安全な歩行・自転車乗車をしている。	B		
	17	学校は、体力を向上させるための指導や環境づくりに取り組んでいる。	B		
	18	学校は、児童の安全確保に努めている。（安全指導、清掃、修繕等）	A		
公開・連携	19	学校は、学校公開、授業参観・懇談会、学校だよりや学年だよりなどで学校や教育活動の様子がわかるようにしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の家庭訪問、2学期の個人面談、日々の連絡帳・電話連絡等を行い、家庭との連携を深めた。一人一人に寄り添った対応が保護者の安心感を生んでいる。 ・感染状況により、保護者や地域の方に、教育活動の様子を公開できなかった時期もあるが、できるだけ教育活動をひらき、感染防止対策を講じながら、保護者との協働・地域との連携を図ることができた。 ・ボランティアの方との関わりについては、まだ児童と対面しての支援は全面的な再開とはなっていないが、SUPによる〇つけ、図書整備、読み聞かせ、園芸、登下校の見守り等、コロナ禍の中でもボランティアの方にお世話になっている。今後も学校応援団・SSVC・SUP等の方々の教育力を生かした環境を整えていく。 ・会計は毎年度、管理職のチェックと、PTA本部役員に監査を依頼している。 	<p>19・21コロナ禍においても様々な方法を工夫して保護者や地域との連携を図ってこられた努力が保護者や地域に伝わり、信頼を得ていると感じる。</p> <p>21支援が必要な家庭の児童のサポートに積極的に地域資源を活用している点も大変評価できる。</p> <p>21多方面にボランティアの力を活用していることは素晴らしいと思う。</p> <p>21対面支援が禁止されている中であるが、家庭学習の〇つけ（SUP支援）だけは続けていて、子供たちの様子が少しはわかるのが楽しみである。各学年を見させていただいているが、みんなそれぞれ頑張っている。中には補習してあげたいと思うこともあるが、総体的にしっかりと指導されているのを感じる。</p> <p>21ボランティアの方々の熱意が校舎の内外で感じられて、地域連携もしっかりとられていて安心できた。</p>
	20	学校は、保護者が教員に相談しやすい環境をつくっている。	A		
	21	学校は、保護者や地域との連携に努めている。	B		
	22	学校は、学年・行事等の会計を適切に処理し報告している。	A		
教職員	23	全教職員で学校経営方針に基づき組織的に教育活動を進めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても全教職員で共通理解を図り、組織としてまとまった教育活動ができた。 ・教職員が常に高い意識をもって職務を遂行している。 ・学校課題研究として2年間国語科の研修に取り組んだ。研修が深まり、授業改善と学力向上につながるのと同時に、児童の主体的に学習に臨む態度が向上した。今回の研究を次年度の年間指導計画に反映させ、つなげていく。 	<p>23・24続くコロナ禍で通常業務に加えてコロナ感染対策の業務の増加があり教職員のご苦労は大変なものと感じている。業務の中で本当に必要なもの、省いてもさしつかえないものも見えてきたかと思う。教職員の過剰な負担を減らし、先生自身も生活を豊かに大切に、心身ともに健康を保つことが、児童にも良い影響を与えると考えている。</p> <p>23・24「かしこい子」にあった自主学習ノートにコメントを入れる事は、保護者に先生方の熱心さが伝わることだと思う。</p> <p>23・24コロナ禍も丸2年になる。最近特に子供たちの感染が多くなっており、前に比べて、先生方への負担が増えていると思うが、しっかりと対応されていると感じている。</p>
	24	教職員が組織の一員として自分のよさを発揮して勤務している。	B		
	25	教職員が積極的に研修に取り組むとともに、自己研鑽に努めている。	B		